

授業科目名	哲学概論
科目番号	CB23491
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB火5
担当教員	平井 悠介
授業概要	教師として子どもをいかに教え育てるかを考えていく前提として、教育の主体と客体である人間とはそもそもどのような存在であるかを理解する必要がある。古代から現在に至るまで、人間のあり方を探究してきた哲学者の思想をたどりながら、個としての人間存在、人間と社会、人間と超越について、講義および議論を通じて探究していく。
備考	原則として、教員免許状取得予定者に限る。 西暦奇数年度開講。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	1 西洋哲学の誕生・発展の歴史について、主要な哲学者の思想を含めて、理解し、説明することができる。 2 人間の生と教育の関連性について、個・社会・超越の視点を含めて、考察し、説明することができる。
授業計画	第1回 哲学とは何か—人類の心の歴史と哲学の誕生の意味の理解 第2回 古代哲学から中世哲学へ—プラトン/アリストテレスの哲学とその展開の意味の理解 第3回 近代哲学の主要課題—デカルト/カント/ヘーゲル哲学の理解 第4回 近代哲学から現代哲学への展開—ニーチェ哲学の意味の理解 第5回 現代哲学としての実存主義—哲学における<実存>の意味の理解 第6回 現代哲学としてのマルクス主義—人間と労働をめぐる哲学の理解 第7回 現代哲学としてのプラグマティズム—哲学におけるプラグマティズムの展開の意味の理解 第8回 生成をめぐる哲学—個としての人間存在と教育の関連性についての哲学的考察 第9回 社会と文化をめぐる哲学—社会形成と教育の関連性についての哲学的考察 第10回 超越の哲学—人間と超越、教育の関連性についての哲学的考察 本授業は対面型授業となります。
成績評価方法	授業への参加姿勢(リフレクションカードの内容含む)と課題への取り組み(40%)、及び学期末のレポート(60%)をそれぞれ得点化し、総合的に評価する。 授業時の学習成果、到達目標に掲げた各項目に関わるレポートの成績により、到達目標を十分満たしたと判断された場合、合格(A+, A, B, C)のいずれかの評価となる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(70%)、意見共有を通じた集団学習(30%) 事前学習、事後学習を含め、1回あたり150分の授業外における学修を要する。
教材・参考文献・配付資料等	授業は予習において教科書を読んでいることを前提に進行します。 授業時には資料を含むレジュメを配布し、使用する。 1. 木田元・須田朗『基礎講座 哲学』筑摩書房、2016年 参考図書 岡本裕一郎『いま世界の哲学者が考えていること』ダイヤモンド社、2016年
オフィスアワー等（連	授業に関することであれば適宜対応します。

絡先含む)	授業時に配布するレジメに記載するメールアドレス宛に連絡し、アポイントを取って下さい。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	授業では他者との意見共有やディスカッションの時間を適宜盛り込みます。積極的かつ活動的に授業に臨んで、相互に学び合ってください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF) ・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	西洋哲学史、人間をめぐる問い、哲学と教育